別紙様式（B4横型）

平成29年度　学校自己評価　（実施段階）

福岡県立水産高等学校長　　印

学校運営計画

学校運営方針	評価
生徒に国家・社会の有意義な形成者となるための「知・徳・体」の調和のとれた教育を施し、確かな学力を育成し、他者との関わりの中での在り方・生き方や使命感を自覚させ、いじめの憎滅はもとより心豊かで力強い生き方ができる人間の育成に努める。	A

昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
（成果） 産業教育フェアや地域交流イベントなどに積極的に参加することで、本校の魅力をアピールした。基礎学力定着のための「朝学習」を継続的に実施することで、海運関係21名をはじめとする93名の就職、大学や本校専攻科などに13名が進学するなど希望進路実現を達成することができた。体験航海や体験入学をはじめ、さまざまな地域交流により、本校の特色化・活性化をアピールすることで、中学校や地域から信頼される学校づくりを進めることができた。 （課題） いじめの未然防止に取り組み、生徒一人一人が安心・安全で「居場所」のある学校生活ができる学校づくりを推し進める。基礎学力の定着、向上のために毎日15分間の「朝学習」において、きめ細かな指導を粘り強く行うことで、生徒一人一人の進路を実現する。「海に学び食に学ぶ　水高」のもと、生徒一人一人が輝くことができる船舶職員、水産、海洋関連業界、食品関連業界などへの人材を育成する。平成29年秋に「第37回豊かな海づくり大会福岡大会」が宗像市鐘崎で開催される。県内唯一の水産高校であり、開催地地元の高校として積極的な参加を推進する。	「知育」 水産人としての基礎・基本の確実な習得と自ら学ぶ意欲・態度の育成、水産業や海洋産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成	○毎日15分間の「朝学習」と習熟少人数指導を通して、確かな学力を身につけさせる。 ○水高生としてのプライドを持ち、それぞれの体験活動を通して、専門的知識や技術・技能を習得させる ○3年間を通した継続性のある進路指導により、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。
	「徳育」 授業および特別活動を通した言語活動の充実と倫理観の醸成	○生徒との信頼関係のもと、積極的な生徒指導を展開し、「爽やかな挨拶・端正な身だしなみ・心和む清掃活動」等を徹底し、『マナー日本一水高』をめざす。 ○いじめの撲滅や差別を見逃さない組織作り、『生徒一人ひとりが「安心」「安全」で、「居場所」ある学校づくり』を推し進める。 ○部活動・生徒会活動及び学校行事の更なる活性化を図り、本校の特色化を推進する。
	「体育」 基礎体力および物事をやり抜く忍耐力や責任感の育成	○「体力向上プラン」により、基礎体力を向上させ、学校と家庭、地域社会が連携・協力し、生徒の心身の鍛錬に努める。 ○健康・安全に関する意識を高めさせるとともに、心身の調和的　発達を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
教務部 教務課	基礎学力向上と高度な専門知識や技術の習得	授業規律を徹底させ、1時間1時間の授業に集中し真剣に取組ませる	A	A	A	・授業規律の第1番目として、始業終業の統一した挨拶を先生方と生徒たちにお願いしたが、徹底できていない。次年度チャイムtoチャイムの徹底。授業の始まりと終わりの時間の徹底。 ・さらに魅力的な専門科目の中学校出前授業の実施。 ・中学校へのPR方法として、学校説明会などの実施を検討。 ・教務部として教務課と企画広報課の仕事の担当を検討すべきである。「中学校訪問」や「体験入学」などについては、広報にまかせるなど。 ・授業のスキルアップを図るため、研修部と連携を図り授業見学週間の実施を検討。
		観点別評価に基づき、アクティブラーニングなどを取り入れた授業改善を図り、生徒の学ぶ意欲を高める	B			
	授業および特別活動を通じ言語活動の充実と倫理観の醸成	週一回、朝学習を活用し「心の教育」を計画・実施する	B	B		
		道徳推進委員会を開催する	B			
	生徒募集につながる広報活動の推進	中学校を担当制にし、年3回の訪問を目指す	A	A		
		生徒の出番を多く作り、適切な指導のもと自覚と誇りを持たせる	A			
生徒指導部 生徒指導課	いじめのない学校づくり	月1回のアンケート調査の実施及び生徒の言動、小さな変化にも教職員が目を配る。	A	A	A	全教職員で授業を含めた学校生活のあらゆる場面で生徒の自己指導能力を伸ばすための生徒指導を行っていく。特に授業の中で積極的生徒指導を行い、自己決定の場、共感的人間関係、自己存在感を得られるような授業展開が必要である。また、生徒の些細な変化に気付くことができるように教職員が全生徒に目配りでき、教育相談の技能の向上を図りたい。そのために研修図書課と連携し、職員研修を行っていく。学校全体の取り組みとして、2者面談期間を設定し生徒理解に努める。 生徒の規範意識を身に付けさせるためには、現在の校則を全教職員で守らせることが必要である。小さなルールを守らせることが大きな問題行動やマナー違反の抑止に繋がると考える。校内外の巡回指導や玄関前での指導等、現在行っている指導体制を徹底する。 生徒会主催のボランティア活動については定期的に行っていく。
		関係教員との情報を共有し、早期発見・早期対応を実践していく。	A			
	基本的生活習慣の確立	月1回の服装頭髪検査を実施し、身だしなみ意識の向上を図る。	B	B		
		登下校、授業の開始終了時等、全教職員で、質の高い挨拶を追求し、指導する。	B			
	生徒会活動の充実	生徒会活動及び委員会活動の充実により、生徒自らの行動意識を高める。	B	A		
		部活動加入率を上げ活性化を図る。	A			
進路部 進路指導課	就職・進学決定100％	進路ガイダンスや講話を実施し、進路意識を高める。	B	A	A	進路意識を高めるためにも進路ガイダンスの実施方法を検討していく必要がある。年に1回のガイダンスでは、単発的なものとなっている。そのため、各学期に1回実施し、職業観や勤労観を育てていきたい。 資格取得では、校長協会のマリンマイスターの周知と取得した資格の表彰や全校生徒への紹介をする基準が必要である。また、資格取得状況把握のデータ整理も引き続き行う。 3年生の進路指導では、生徒の情報共有は必須である。また、企業や大学が求める人物像なども含め情報収集をすすめたい。また、進学希望者の学習会の実施方法や時期、内容についても検討していきたい。 企業訪問では、事前に予算請求を行い、企業訪問を実施していきたい。
		進学希望者の学習会を実施し、学習習慣を身に着けさせる。	A			
	資格取得の推進	年間の資格スケジュールを提示し、計画的な資格取得を勧める。	A	A		
		資格取得者の表彰や掲示を行い、生徒の意欲を高める。	B			
	企業訪問の実施	1学期、3学期に企業訪問を計画し実施する。	B	B		
		生徒の希望進路に合った進路開拓を行う。	B			
第1学年	進学、就職ともに必要な最低限の学力を身に着ける前提として、最低限の学習姿勢を身に着けさせる。	4年生大学進学希望者には、放課後の学習会を早期に実施する。	A	A	A	生徒と教員が進むべき方向を具体的に意識できていており、教科指導や生徒指導を生徒が受け入れられる体制になっている。学年としてのまとまりができてきている。「大人の眼」を持てる生徒も出てきている。 進学意欲のある生徒たちに夏休みの学習会を実施した。二学期以降、継続的な指導をつなげていくかが課題である。一方で、学校生活に慣れはじめ、生活や意識が緩み、特別指導対象者が多数出るなど、2学期以降の指導も適宜必要である。問題行動に対する意識の共有と引き締めのための学年集会は何度も実施したが、問題行動は続いた。 また、課題として①集中力が持続できない②指導に反発するような態度はないが、積極的に参加しようという当事者意識は低いなどがあげられる。 学年や学校に対する帰属意識は芽生えてきていると感じる。
		授業規律を重視し、形からでも学ぶ姿勢をつくるように指導する。	A			
	450～500日後の自分を生徒にイメージさせるように、長期的な視野と思考を持てるようにする。	制服、靴、スリッパなどが試験に耐えられる状態であるように指導する。	B	B		
		「やるべきことをやる」生徒に仕上げる。	B			
	集団としてまとまり、かつ集団内の規律が個々を律する行動を求める。	学年指揮を生徒とし、生徒が学年を育てる意識を持つように指導する。	A	A		
		問題行動は学年全体のものととらえ、学年集会をその都度、実施する。	A			
第2学年	基本的生活学習習慣の確立と社会性を身につけさせる	欠席、遅刻、早退の防止に努める。特に無断欠席を防止する。	B	B	A	・いつでも面接試験が受けられる状態へ生徒を導いていく。挨拶や言葉遣い、場面に応じた言動を指導していく。 ・体育祭や水高祭等の学校行事では最高学年である自覚をもってリーダーシップを発揮させる。 ・教科担当とクラス担任がそれぞれ責任をもって連携を強め、授業態度や欠課状況の把握、進路の方向性等の共通理解を深める。 ・問題行動発生時に学年全体で指導を行う体制を強め、担任や特定の教員に偏らない指導を行う。 ・職業人を育成していくに、授業や行事などにおいて、人の話をよく聞いて考え行動するという一連の動きを、さらに高めていくことがよくできるようにしていく。
		授業中はもちろん、家庭での学習習慣を育成する。	B			
	進路意識を涵養する	進路希望先を明確にさせ目標を設定させる。	A	A		
		進路先と希望生徒との相性などを考慮した進路指導を行う。	A			
	水高生としての自覚を持ち、水産業各分野の専門性を高める	水産業界で生き抜く力として資格取得を促す。	B	A		
		豊かな海づくり全国大会や修学旅行などの行事を通しリーダー育成を行う。	A			
第3学年	進路決定100％。	進路ノートを活用し、1学期末までに進路指導室全員利用を目指す。	A	A	A	進路保護者会の出席率が44％であった。例年より出席率が低かったが、1学期三者面談での担任の努力により、大きなトラブルもなく年末までにほぼ進路確定となった。できれば、進路保護者会については、2回程設定するのが望ましいと思われる。
		1学期中に進路指導を終わらせる。4月学年主任面談。5月履歴書指導。6月面接指導。4月調査書作成。	A			
	科、コースの特性に応じた進路決定。	各コースの先生と協力し、面接指導を複数の教員が行う。	B	A		
		進路先や、就職先と希望生徒との相性などを考慮した進路指導を行う。	A			
	学年で共通理解を持ち、進路指導部・各科コースと連携をとり指導をおこなう 。	朝礼、終礼、学年集会、朝学習等を利用して、試験で合格を勝ち取れるような態度を身に付けさせる。	A	A		
		学年内で情報を共有し、進路指導部、各科コースと連携をとって指導をおこなう。	A			
教務部 企画広報課	マナー日本一水高を目指した行事の運営	式典・学校行事等を円滑に運営し生徒の水高生としての自覚およびマナー向上の一助とする	A	A	A	①学校行事の企画・立案・・・前年度よりもよりよい運営ができることを目標に、細やかな気配りある運営をする。（来賓関係の住所確認・郵送物・お礼状・駐車場配置図など。事後アンケートによる職員からの問題点のすいあげ） ②広報活動・・・報道関係へのPRをより一層行う。福間駅のポスターの作成内容と作成回数の計画を練る。ホームページに中学生からの質問と解答を掲載するなど、より役立つ広報活動を行う。ドローンによる画像や動画を広報活動に取り入れる。 ③PTA活動・・・定例役員会や各行事における役員の参加数の増加を目指し、特に新一年生など新しい役員さんへのつなぎをしっかりとしたものにする。PTA総会への多くの保護者の参加を募る工夫を行う。
		危機管理マニュアル・避難訓練を通して生徒の安心・安全を図る	B			
	生徒の自尊感情・向上心・チャレンジ精神を高める広報	ホームページ更新を速やかに行い「今頑張っている水高生」を伝える	A	A		
		水産高の特色ある学校行事等の外部への広報（福津市等）	A			
	PTA活動等を通した学校と家庭・地域社会と連携	PTAと共に生徒の心身の育成を図る（行事でのサポート体制の確立）	A	B		
		PTA活動（役員会・総会）・同窓会行事の運営のサポート	B			
生徒部 保健環境課	保健に関する情報の発信と環境衛生保全のための確認、報告	生徒保健委員会を指導し、月一回の保健便りの発行を行う。	B	B	A	今年度からの取り組みとして月末大掃除（魂の清掃）を開始した。大掃除という意識を定着することはできたが、具体的な取り組みについては、曖昧な所があり、掃除区域によっては普段の清掃と変わりないところもあった。来年度は、魂の清掃時に行う内容を明確にし、生徒に事前指導した上で、より充実した取り組みにしていきたい。また、年間コンクールの評価基準を職員に配布し、美化委員会による日々の清掃状況を評価し、掃除に対する生徒の意識高揚を促していきたい。加えて掃除は掃除の時間にすればいいという考え方が根付いているようである。ゴミを見ても素通りしてしまう、ゴミがあっても異常ではないという環境に慣れてしまっており、美化意識が非常に低い。日本一きれいな水産高校には程遠い。これかも粘り強く意識改革を続けていかなければならない。 生徒情報の共有に関して、来年度は、学校生活アンケートのデータを管理し、生徒相談の充実を図っていきたい。またそれらの生徒情報データを共有する方法として、学校共通シートの作成が必要である。
		環境衛生検査（水質・照度検査等）を実施し、各場所での保全に努める。	A			
	校内美化を推進、教育環境を整える	学期に一回校内の掃除が行き届いていない場所や破損個所を把握し、改善を図る。	A	A		
		放課後に校内巡回をし、次の日の教育環境を整える。	B			
	保健指導、生徒の心身の保持増進、健康把握と基本的生活習慣の確立	インフルエンザ等感染症の予防、対応を適切に推進する。	A	A		
		生徒の心身の健康を把握し、スクールカウンセラー等と協力し生徒の学校生活を支える。	A			
進路部 研修図書課	公開授業・研究授業の事後の評価など、授業者及び参観者への相互のフィードバック	各科・コースを超えての授業参観を奨励し、相互に参観しやすい環境を整える。	B	A	A	今年度は、基本、昨年度のやり方を踏襲した形で取り組んできた。その中で、各先生方に負担をかけずに円滑な業務遂行ができる工夫がないかという視点で今年度を振り返ると、校内研修のスリム化や、研修と会議の一本化などが考えられる。各研修後の職員アンケートを見る限り、経験年数や職歴の違いにより、必要性の捉え方に大きな隔たりがあるのが現状である。行事や会議、研修の数をただ単に増やす方法以外に、職員のメンタルヘルスに留意しつつ、効果のある、具体的研修方法を取り入れていくことが次年度の主な課題である。また、今年度と昨年度の初任者が牽引力となるよう、フォローアップできる体制づくりも必要であると考える。
		基本研修を中心に、同科・コースの先生方が参観できるよう、できる限りの時間割変更を教務と連携して行う。	A			
	校内職員研修の内容の精選と円滑な運営	生徒の安全管理に関わる内容や、水産に関連した研修を取り入れる。	B	B		
		円滑な業務遂行のため、職員間のコミュニケーションが取れる研修を取り入れる。	B			
	図書貸し出し冊数及び、図書館利用の増加	図書館オリエンテーション（1年生）や水高祭企画の実施。	A	A		
		校外研修を含めた図書委員会活動を活性化し、図書館を利用しやすい環境を作る。	B			
海洋科 航海コース	将来の船員として必要な力を向上させる	海技士国家試験（筆記）合格者を複数出す。	B	B	B	海技士国家試験への取り組みは、定着してきている。意識を高く持たせるための取り組みが課題である。船乗り希望者、専攻科希望者が多く船員への就職率は達成できた。 乗船実習事前指導を徹底し、生徒の意識を高めることができた。また健康調査を念入りに行うことによってバックアップ体制をとることが出来た。しかし、短期乗船終了後から長期乗船乗船へ向けての指導の際、トラブルが生じた。大きな問題として1名が下船したことである。30年度の運航計画の見直しを含め検討していきたい。 養成施設の整理についてはまだまだ課題が多く、業務も円滑になってない。国土交通省への提出書類、免許講習の実技の実施、外部監査の対応など業務内容をどのように行っていくのかは航海コース、機関コースの大きな課題である。
		乗船前指導の徹底により乗船実習の達成を図る。	B			
	3年間を見通し、計画的に希望進路を実現させる	船員としての適性を考慮した効果的なコース選択の道筋をつける。	B	B		
		船員への就職率70％以上をめざす。	B			
	船舶職員養成施設としての業務の円滑な運営	海友丸、2県との連携を密にし、乗船教育の充実をはかる。	B	B		
		海技免許講習・3級養成施設の登録更新、QSSの整理を行う。	B			
海洋科 機関コース	安全教育の徹底	実習における保護具の着用、安全管理マニュアルの確認の徹底。	B	B	B	○実習中の服装、保護具の着用の指導を行ってきたが、実習中にふざける生徒による事故が発生した。次年度は、事故ゼロを目指したい。 ○放課後の補講を行うことにより、多くの資格を取得することができた。特に、甲種危険物取扱者の試験に合格者を出したのは大きかった。次年度も補講により資格取得を目指したい。また、特定の生徒だけが合格するのではなく、全員が資格取得に取り組むようにしていきたい。 ○2年次のインターンシップ先の開拓を行い、就職先となる様にしていきたい。 ○機関Ⅱコースのありかた、乗船について検討していかなければならない。
		工作機械の緊急時の取扱いを指導する。	B			
	専門科目への意識付け	船舶機関士をPRする。	A	A		
		関連資格を取得できるように指導する。	A			
	船舶職員養成施設としての業務の円滑な運営	海友丸、2県との連携を密にし、乗船教育の充実をはかる。	B	B		
		海技免許講習・3級養成施設の登録更新、QSSの整理を行う。	B			
海洋科 マリン技術コース	全員に有効な潜水資格を取得させる	潜水士資格については全員合格を目標に指導を行う	A	A	A	潜水士教育をおこなっている種市高校、茨城海洋高校、京都海洋高校では水深10mの潜水プールやヘルメット潜水器、水中溶接専用プールが標準装備となっている。 本校がそれらの施設設備を有するためにはどのような方策を取る必要があるのか研究を始める必要がある。
		ダイビング実技資格については各自の進路先に合わせて取得させる	A			
	バディシステムを確立し共助心を育成する	実習前の健康調査や器材点検等バディチェックを徹底する	A	A		
		潜水器材については個人管理を導入し物を大切にする心を育てる	B			
	溶接・浚渫など実践的な技術を習得させる	溶接については職員研修を進めるとともに社会人講師も活用する	C	B		
		浚渫については具体的目標を定めて個別に指導を行う	B			
食品流通科	学習への意欲・目標を持たせ、食品に関する知識を習得させる。	資格取得を計画的におこなう。	A	A	A	①HACCPへの対応準備 ②実習品・原材料の在庫管理とデータの共有 ③実習工場の整備・管理 ④企業との交流・情報交換 ⑤新商品の開発 ⑥新商品のネーミング・ラベル作り
	他者とのコミュニケーション能力取得を目的とし、社会での実践能力を身に着ける。	異校種間交流・地域イベントの参加。	A	A		
	新商品の開発。	地域との連携。	A	A		
アクアライフ科	学習に対する目標や意欲を持たせ、漁業・養殖業に関する技術および知識を確実に身に付けさせる。	シラバス等を活用し、授業や実習の目的を事前に明確にする。	B	B	B	①定期的な科会の実施 ②総合実習の計画的運営 （座学とのリンク・補完できる内容） ③備品、道具の充実 ④環境整備 ⑤海水取水問題の改善
	挨拶・身だしなみ・言葉遣い、安全意識等に関して、社会人・水産人として必要不可欠な資質を身に付けさせる。	挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守の指導を徹底する。	A	B		
	生徒一人一人の夢を実現させるため、早い段階から進路指導を行う。	卒業後の進路を早い段階で明確にさせ、個々に合った適切な指導を行う。	A	A		